



# 〈ゆうゆうの里〉震災対応臨時ニュース No.27

第3次隊が支援に通う  
安渡(あんど)小学校

12日午後遠野を出発した第2次隊4名は  
那須温泉で一泊して9日間の垢を落とし  
本日11時30分東京の本部へ帰還しました

2011年4月13日 (財)日本老人福祉財団  
103-0012 中央区日本橋堀留町1-7-7  
Tel:03-3662-3611 Fax: 03-3662-3656

## 第2次隊支援終了し、3次隊と交代 12日午後

岩手は梅や水仙が丁度見ごろ。まだ少し肌寒い季節ですが、12日は快晴で第3次隊への引き継ぎ日和。無事第3次隊への引き継ぎも終え、引き継ぎ昼食会の後、東京へ(那須塩原経由)出発しました。

- 人の心に寄り添うこと…これは非常に難しいことだ。ただ、寄り添うためには何をしよう?と、自問自答して、とにかく行動に移してみる。これが、どんなことであっていい。まず、**五感で実現を感じ取る**ことが、**寄り添う第一歩**だと、今回の活動で学んだことである。新たなニーズを導き出すにしても、その人の生活に溶け込まなくては、問題は見えてこない。しかし、きっかけはたくさんある。**考え込まずに、できることから始めれば、自ずと寄り添うことに繋がっているのではないかと、被災者と被災地に関わって、感じた。**(大阪ゆうゆうの里KT)
- 援助活動を通して継続した支援が重要であるということです。3週間お風呂に入っていない方や家族を失った方など様々な方にお会いする事が出来ました、みなさんこの援助が途切れる事を心配されていると私は感じました。また支援する側も一部の方ですが被災しながら対応している厳しい状況でした。**私たちの活動は被災した規模を考えれば小さな活動ですが被災している方々の希望になることを願っています。**(佐倉ゆうゆうの里K)
- このチームに参加できた事を誇りに思います。自分達ができる事は限られていましたが、それでも多くの人と出会い触れ合っただけで感じた事は私の人生の中で**すごく大きいこと**だと思います。私達の日常の当たり前が被災地では幸せだと

いうこと。人は常に助け合って生きている事は私の人生の中ですごく大きいことだと思います。私達の日常の当たり前が被災地では幸せで、人は常に助け合っただけで生きていること。人と人との絆や、繋がり等様々な思いを感じました。介護士としてではなく、**一人の人間として学び実感しました。人の心に寄り添うことの難しさを感じる事ができ、決して多くの方ではありませんが、私達が行って来た活動で笑顔を見せて下さり本当に良かった**と思います。(京都ゆうゆうの里I)

- 入浴介助を通じてたくさんの笑顔が生まれるように頑張ってくれた第2次隊のメンバーに感謝します。**最高のチームでした。**最初に目に入った被災地の光景は衝撃的でした。何も言葉は出ませんでした。これほどひどく被災された方々に、私たちは何をすることが出来るのか不安だけが大きくなりました。しかし、温かく迎えてくれた大槌の方々のおかげで不安なんて吹飛びました。一人でも多くの笑顔に出会いたい一心で活動した9日間。皆が一緒に笑えるような日が来ることを願いつつ、第2次隊の最終レポートを送ります。(京都ゆうゆうの里N隊長 11/04/12(火) 13:53)



第2次隊(右)から3次隊へ引き継ぎ

## 聖隷チームと協力し支援活動開始

### 第3次隊長レポート① [12日 21:58]

#### 東京から遠野へ(11日)

- 本日より3次隊レポートがスタートします。皆様よろしくお祈りします。
- 10日朝9時30分、本部の皆さんに激励を受け、晴天の中出発しました。東北自動車道では、速度制限(50km)区間もありましたが安全第一で走行していました。しかし、17時16分、カーナビのTV音声より地震警報の知らせが…。慌てつつも、落ち着いて運転しました。まだまだ余震が怖いです。
- 19時30分頃、予定時間より1時間30分遅れて支援本部(遠野市浄化センター)へ到着しました。
- N隊長以下2次隊の皆さんに会えた時は、ほっとしました。2次隊の皆さんには疲れている中なのに夕食を用意してもらいました。感謝です。
- また、聖隷福祉事業団の宮崎さんをはじめ4名の方ともお会いし、挨拶。
- プレハブの拠点は、1次隊、2次隊の皆様には、申し訳ないくらい温かく快適。

#### 12日午前、第2次隊から引き継ぎ

- 一夜明けていよいよ本日から活動開始、被災地へ向かいました。
- 聖隷チームとともに、2次隊から被災地(小槌、大槌)を案内され、引き継ぎを受けました。  
・支援本部で静岡県危機管理局、遠野まごころネットワークへ挨拶⇒**小槌地区**～はまぎく(デイサービス)、弓道場、運動場の自衛隊設置風呂、すずらん、伝承館、ケアプラザ大槌(老健)⇒**大槌地区**～安渡小学校、大槌稲荷神社、大槌社協。  
・運動場へ戻り昼食、2次隊とお別れ。
- 聖隷チームとわれわれ(ゆうゆうの里)3次隊は、協力しながら被災者支援を



聖隷チーム(前列)と(ゆうゆう)第2次・3次隊員

行っていきます。分担は以下のとおりです。

- ・聖隷チーム1次隊:ゆうゆうの里1、2次隊が関わってきた小槌地区の方々の支援を入浴援助中心に行い、新規があれば対応してゆく。
  - ・〈ゆうゆうの里〉3次隊:2次隊が、切り開いた大槌地区及びその近隣の入浴援助を中心にニーズを探り出し支援する。
  - 聖隷1次隊の宮崎隊長と以下のことを確認しました。  
>朝の打合せ、夕方報告会を実施 >入浴実績一覧は、一元化して共有。
- #### 新しいニーズをみつけに、大槌地区へ
- 午後、第2次隊より「(入浴援助の)ニーズがある」と引き継ぎを受けた大槌稲荷神社避難所へ向かいました。明日(13日)男性1名の入浴介助をすることになりました。ご本人、奥様からも楽しみにしている笑顔をいただきました。
  - その後、北西の吉里吉里(きりきり)に向かいました。大槌の被災地域と同様でした。しかし、特別養護老人ホーム「らふたあヒルズ」の外見は無事のように見えます。ここも避難所となっているようです。もう一つの特別養護老人ホーム「三陸園」も遠くに確認できました。
  - 帰りの車中で、第2次隊が関わった保健師さんから連絡がありました。「大槌高校に避難している男性の高齢者1名を入浴させたい」と。被災してから全く入浴しておらず、保健師さんの交替が近いので、関わりのあるうちにお願したいとのこと。明日お迎えに行くこととなりました。2次隊から受けたバトンを強く感じました。
  - あつという間に一日が終わりました。以下初めて被災地を見た隊員の感想。  
・被災地を五感で感じましたが、いまだに現実味が無いほどです。言葉が見つかりません。(Y)  
・あまりの凄まじさに映画のワンシーンに飛び込んだ感じでした。(A)  
・避難所の皆さんが暖かく迎えてくれました。「自分達のほうが大変なのに…」明日から頑張らなくてはいけません。(A)
  - 中川隊長、2次隊員の皆さん、お疲れさまでした。1、2次隊からのバトンを引き継ぎ、大槌町の皆さんと築いた絆を繋げていきたいと思っています。

本日、みなさまから寄せられた募金から500万円を中央共同募金会、宮城・福島・岩手各県社会福祉協議会へ送金しました

4月12日までの募金  
累計925万円

## 東日本大震災救援募金(義援金)募集中

〈ゆうゆうの里〉及び本部事務所に募金箱を設置しています

- ☆寄付先や用途を指定される場合、寄付金控除のための領収書が必要とされる場合は、事務所へお申し出ください。
- ☆集まった募金は、日赤、共同募金会、NPOなどに送金し、被災地の救援活動や復興資金に充てます。